



蓬田村連婦役員研修会

「統一地方選挙に、特定の候補者のため、各部落婦人会は、応援に歩かないことを決議す」

蓬田村連合婦人会（会長坂本清江）では、去る一月十日蓬田村役場会議室において役員研修会を開

急激な社会構造の変化にわた

し達は一時たりとも目を離すことができないと思ひます。わたくしはまだまだ浅いのですが教育関係に直接たづさわることになって特に感じたことは「環境」という事であります。人的環境と物的環境に一人一人がやさしい心の目をそそぐことによって地域社会の健全な環境造りが形成され幸福ははぐくまれるものと思ひます。

一、教育活動の充実

1 児童生徒指導の充実をはかるとともに新教育課程実施体制の確立を期しなければなり

いた。会員約五〇名参席、講師県社教主事杉沢先生を招き正しい家庭の

- 2 学校教育の現代化をはかるとともに管理運営の適正化をはからなければなりません。
- 3 生涯教育をめざす社会教育の研修活動を強化しなければなりません。

心の目

一、体力づくりの強化

- 1 学校保健安全教育の徹底を期しなければなりません。
- 2 社会教育指導組織の確立強化をはかるとともに指導者の養成を期しなければなりません。
- 3 社会体育施設の充実をはか

（教育長 田中一雄）

蓬田村公民館報
【蓬門】第77号
発行所 青森県東津軽郡蓬田村公民館
印刷所 第一印刷

＜世帯と人口＞

世帯数	1,006
人口	男 2,523
	女 2,661
計	5,184

（45.12.31現在）

あり方について有意義な講演があり、提案事項として張間きよ（副会長）より現在まで統一地方選挙には特定の候補者のため各部落婦人会員はそれぞれ部落を廻り選挙運動の応援に歩いてきたが、今年からは婦人会の在り方、組織面において不都合があるようですからやめることを皆さんで決議し、会員に徹底せしめたいと思ひます、と提案理由の説明をし、全員一致で決議し、今後の婦人会活動に新

らなければなりません。

風を吹き入れたことは注目に値し、すると高く評価されておる。研修会を終え会場を蓬田村公民館に移動し、レクレーションに入り盛會裡に終った。

「蓬門」原稿募集
「蓬門」の原稿を募集いたします。どんな事でもよいです。原稿を送つて下さい。
原稿送付先
蓬田村教育委員会



熱心に研修する婦人会員

羨ましい国道

蟹田地区交通安全協会

蓬田支部長 坂本増吉

私は二十一年三月台湾からやせて本土和歌山の田辺港に久し振りに土をふみ、二日後には雪の降る青森駅へつき、焼け野ヶ原を見渡す心は淋しかった。

当時蓬田村には自動車らしい物が見当らなかつたが、次の年農協が運送トラックを取得し、商人が自家用車を持ち今では一般百姓業も乗用車を持つような世の中となりました。

日本帝国は過去に於いて、台湾統治五十年間に投資した国造りは「イザ鎌倉」を予測し、ばぐ大に費やした事と思われる。二十年、私の所属する陸軍雷撃隊は海軍の協力を得て「ボルネオ」のパリックババン、比島のタラワン島等の機動艦隊を雷撃、大戦果を収めましたが、我が方二ヶ中隊長以下四十八名と六機を一挙に失い、シンガポールチャンギー飛行場に翼を休めていた頃、本土大本営では、秘かに沖繩脱還作戦に使用すべく新鋭勇敢な我が六十一戦隊を選

び、夜間行動ばかりで急拠台湾の中央嘉義に呼び寄せられた。

六月十六日、最後の「ゴース」香港の山の陰の飛行場から夜の一時離陸し、嘉義到着翌一時二十分、私は二十六機中三番機だった。直ちに飛行場からそ開地上隊の誘導トラックに引きづられ、二十五Kも遠い「サントウ」と云う一村落の大マンゴー樹の木陰に定

着したのは夜明け前だった。直線の舗装道路、その日午前八時各所に分散した隊員百五十六名トラックから下車し数個並んだ格納庫前に集合、部隊長の令下に入る。

そこで私の驚いた事は、のちの作戦よりも飛行場及び嘉義市を中心に巾十米以上の四方に延びる国道だった。戦争前までは緑りしたたる両側の並木も、直経三十三センチ位の根元からおし気なく切り倒されている。翼の長さ二十三米の雷撃機のけんいんは勿論、次々と戦斗機を離陸出来た事でした。さらに民間では何「ールもの砂糖

キビ畑には製糠工場を中心に簡易鉄道を走らせている。

前書きが余り長くなりました。我が国道二百八十号線も、せめて四十年前の台湾国道の三分の一でもよい国道になれば事故はか

なり減る事と思われる。さて昨年蟹田地区管内交通事故件数は八十六件、負傷九十五名、死亡八名と一昨年からかなり高くなっていますが、蓬田管内では二十六件、負傷〇、死亡中沢の三名と少くなつて、みなさんのご協力の賜と思つていますが、但し悲惨な目をおうような事故、又奥内で起きた我が若い命を失った事は誠に痛々しい。

私達安協の役員、指導隊は村交通安全協議会に協力し、昨年春、母の会を結成、又指導隊も五名から九名に増加し、四季に行う運動外にも出てそれぞれ自分の業務時間をさき、一丸となつて見回りを続けて参りました。

道路の改修促進はもとより歩行者に法令指導、若い運転者には追い越されても「何クソ」と云う反射気持をつつしんでもらいたい。ここで又話が外にそれて誠に申し訳けないのですが、南方の飛行場に居た頃、自動車の運転者不足し、現住民の運転者を雇う事があつた。彼等の習性は何時も「ハ

ダシ」だ、整備は主として手の技術運転、技術は目と足に重きをおく、彼等の足は指の根元に「アクセル」加減の神経が集中しているかの如く、扇型に巾広く発達し、然も「アクセル」はじかに足下に接しよくしている事だ。

そしてどんな急坂曲角でも事故がない、突然飛び出す鶏犬をも道路を横断する動物を車輪の下敷にはしなかつた。

私は文化国日本の今日、交通戦争のむじゆんを少くするため、今の法令を改正し自動車運転時運転者は「ハダシ」で行う事、さすれば「ぐん」と交通事故も減るんではなからうかと思はば考いてみます。

幸い今年に入つてまだ浅いが一月二十日現在、蓬田管内の事故は軽い接しよく三件との事、昨年秋季には幼児飛び出し防止棒を蟹田営林署から払い下げ、不完全乍ら役立たせ、今年は更によき「アイデア」をつくるよう村対策協議会に望み、各種団体一つとなり不幸によるみじめな家庭を事前に救ひ、一件でも少くなるようこの職にある者が願う次第でございます。

昭和46年 新役員決まる

昭和46年蓬田村青年団体連絡協議会の役員が左記のとおり決定いたしました。

今年は一「各単位団体の活動強化とリーダー育成」を基本方針に

- 一、リーダー研修への積極的参加
- 二、郷土発展に伴なう事業
- 三、事業を単位団体による主管制とする。

を三本の柱として、より充実した青年団活動を行う為に全員ハリキッておりますので、どうぞよろしくご協力をお願いします。

- 会 長 八幡敏雄
- 副会長 久慈正明、藤本愛子
- 会 計 森 清秀
- 体育担当 工藤三男
- 文化担当 藤本治郎吉
- 情宣担当 青木倉元、坂本ふみ子
- 女子活動 稲葉百合子、清水せつ、松本鈴子

- 書記 大宮正志
- 監 事 藤田修一、森 秀雄
- 事務局長 越田 守
- 次長 吉田常逸

蓬田村出稼組合総会行なう

去る一月九日、玉松公民館において総会を行なった。事業計画、役員は次のとおりです。

監事 八幡重五郎(高根) 福井 蔵治(郷沢) 木村 勝正(蓬田) 加賀美勝男(阿弥陀川)

理事

一、会員増強 鳴海 秀秋(中沢) 福島 光雄(長科) 森 藤代(阿弥陀川) 小松 善春(蓬田) 工藤 義正(郷沢) 田中 鉄男(瀬辺地) 八幡 政秀(広瀬) 稲葉幸次郎(高根)

二、事故防止の徹底

三、留守家族の援護

役員

組合長 田中 勇三(瀬辺地) 副組合長 佐井勇太郎(広瀬) 赤坂勝三郎(中沢) 三浦 辰海(長科)

出稼に行かれる皆さんへ

- 一、いつでも正しい手続きで
- 二、にっこり笑顔で健康診断を受け
- 三、さあ、みんなとそろって出発
- 四、仕事にはいつも気をくばり
- 五、子供は元気かと手紙かき
- 六、自分の行く事業所のある安定所と労働基準監督署の名前と所在地電話番号を聞いておくように
- 七、現場のきまりとか注意をよく守るように
- 八、働く現場が危ないと思ったらそのことを現場の責任者に云ってなおしてもらいか、やめてもらうように
- 九、働いた場合は手帳か何かにつどこでどんな仕事をしたか書いておくように
- 十、働く場所、事業所をかえた時は必ず新しい居所を家族と現場に知らせるように
- 十一、何か起きた時に
- 十二、もしけがとか事故がおきたら事業所の責任者に労災保険の手続き又は証明書を書いてもらう
- 十三、そのことをなるべく早く県外事務所とその事業所のある監督署に知らせるように
- 十四、いろいろの補償の請求書は働いているところの監督署へ
- 十五、けがなどで入院している場合は、もし病院をかえる時は自分の働いた事業所の責任者に証明書を書いてもらうように
- 十六、自分がいつ頃仕事をやめて帰るか現場の責任者に知らせておく
- 十七、自分のいた間のお金などの貸し借りの始末をつけるように
- 十八、賃金の未払いがある場合は出稼手帳の中に書いてもらうか、未払の内わけを事業所の責任者に書いてもらって事業所のあるところの監督署に知らせておくように
- 十九、未払いの分をあとで送ると云った場合でもそのことを監督署に知らせておくようにして下さ

集団電話についてお願い

お申込みの地域集団自動電話の工事を去る十一月からはじめて参りましたが、降雪が予想より早かったため工事予定を変更せざるを得ないものと考えられます。つきましては、電話機の取り付けと室内配線作業に係員がお宅に

蟹田電報電話局

中沢部落婦人会研修会

一月十二日中沢公民館において中沢婦人会(会長坂本とこ)では蟹田地区農政普及所共催で研修会を開いた。

講師には県社教主事須郷先生を招き将来の日本の人口の問題にふれ、昭和六〇年頃には我が国の人口は老人が三分の一をしめることになる。今の若いおかささんたちは子供を生まず、全国平均夫婦二人で一・七人の割合しか生まなかつた。それで老後はよいのかどうか考えるとときではないかと問題

点を提起し、更に親子の断絶するような育児の問題点、三才まで母の肌ふれて育てることの有意義なこと、ふるさとの味、おふくろの味を知らない子供の大人になつたときのわびしいことなど実例を引き二時間にわたり講演され婦人を感動せしめた。

午後は普及所職員を囲み座談会に入り、楽しい家庭の造り方について約二時間にわたり話合を進め有意義に終つた。

「還付申告」と「納税証明」の請求はお早めに

昭和四十五年分の所得税の申告と納税は、二月十六日から三月十三日までです。例年この期間に納税者の皆様が多数来署し、署内が大変ごみ合いますので、税務署では、これを、幾分でも緩和するため税金の還付をうけるための申告については、一月から受付方を早く税金をお還えしするようにつとめていきますから、税金の還付をう

けるための申告は早目に提出されるようご協力ください。

また、この時期は業者登録、入札参加などのため、「納税証明書」の請求が最も多い時期にあたります

「納税証明書」の請求は署内の混みあわない二月十五日以前か、四月以降に請求されるようにご協力ください。

豊水放談 剣ヶ峰

はじめに

私は評論家でも解説員でも論説者でもない。
あえて突込みなら生きていく一人の人間でも云へるかも知れない。

本風とは

七〇年風刺いろはカルタの「米が余って農民憤死。」の「農林大臣ナンテなてよ。」と「佐藤の顔も四度。」(仏のつらも三度)作者不明(毎日新聞)
米が余っておることは周知の事実。食管制度を守るため農民はた

の間、前記の如く烽火が上り落城した。この攻防は攻めが強いのか守りが弱いか論外だ。

四十五年(七〇)佐藤総理は宇都宮の一日内閣で食管制は小骨一本も抜かないと言明し、翌日の新聞で報導され誰れでも知っていた。
それをなにに数ヶ月で米は買入制限消費米の統制をはづし自由化にした。小骨一本どころか大骨まで抜き白している。しかも暮れ迫る三十日の夜半劇だった。

実は食管制度を大中に改革するにどうしても通らねばならない

「表門」であることだけは愚かな筆者でも判断がつく。
(四三年(四八)中立米審委で物価統制令適用外の声が出て、米が余っているに食糧不足時代から直接統制している食管制の存続はおかしい、早い話食管制改悪論者の親玉は倉石農相であった。
同年国会予算委で倉石農相は漁業問題で失言、憲法違反に問われ野党の総攻撃に逢い首が飛んだ時笑み返りに呟いた。そして積倉の食管改悪に中央会で指を叩いてた。
黙っていたわけではない受けて立ち上った。

通年施行による休耕を始め希望休耕もあり一四〇ヘクタール約二・四倍に及び休耕した。
四六年度予算は生産調整に対し最後まで持越され三十日夜政府案がまとまり翌三十一日の新聞は一斉に発表され越えも暗い思いでこのへ来た年越しも暗い思いでこの先どうなるのか不信と不安で年越し酒も酔いない人々が殆どだったろうと思われる。

内容二五〇〇万トン調整休耕減反政府買上げ五八〇〇万トン、自主流通米(閏)昨年六万ヘクタール政府の責任において先行取得はな程買上げたのか一言もない。
四六年はなんの音沙汰も隠すが如く消えさつたゴミ見たいなものになった。昨年は一〇〇万トン減反五ヶ年で調整可能と言明し、その声で協力した。

然るにたつた一年で培以上の二

三〇万トンとはどう計算したかどんな計画か誰しも納得出来るものではな計、猫の目政策も出来るところだ。この激しい渦に巻かれるのは農民だけだ。それで外国表統給総二二五万トンと発表している。
悲べて、しわ寄せは農民に与え平氣の水平、これが政治なのか農政なのか憤りと不信と不満に幻影を追っているようなものだ。
「苛政虎よりこのわし」今頃こんな思ふと誰れが想像したか歯止め措置としてとった買上げ制限とは農民に与える刺激をさけるため「予約数量を定め、この範囲で決める」と買上げ制限との文字を隠す伏魔語に外ならない。衣の中での儀式より恐ろしい毒薬の含まれていることを知らねばならない。
更に大結めにきた昨年暮れ三十日一夜の中に消費者米価統制令を廃止した。官僚政治下の特権階級の遺物だ。年末のドサクサに粉れ火事場ドロボの怒る消費者の声も当然であろう。

米価据置は物価騰貴による価下げであり物価指数と生産性を压低んだ米価なら四六年産は一俵九、五〇〇円以上でなくてはならない筈である。置かれた捨子同然で無情な母親に等しい。

むすび

食管の根幹堅持とは名のみとなつた買上げ制限と消費者米価統制令廃止で絵に画いた餅みたいなもの期待感ももてない。しかもかわらぬ九兆ヨイヨイと自もかかってくるか出来ぬのかこの際はおつくりする必要は無いのかこの際にお立ちしたされたい。既に剣ヶ峰に立たされた。それをどう対処して生活権を守るのか先づ各自が真剣に考えるときがきてい。問題点は自主流通米(閏米)一八〇〇万トンの中の本村の米をどう処分するか浮ぼりにしなくてはなるまい。
五七〇万トン政府買上げ米と現在の余剰米を合せ約一三〇〇万トンの米がこの秋倉庫にあることになる。現在の閏白米一俵七、七〇〇円の相場のようにだ、生産調整に協力なく作付するなら勢い自由米として安く売らねばならぬ。農家個々の収入は減ることは目に見えておる、それかとて転作物は今のところ見当らない。休耕が徳かく作つて政府買上より安く売つても徳か各人の計算でどうう果たして一八〇万トン以上の自由米が出廻ると五ヶ年で調整がつくのか一番のポイントになる。

後門の虎、前門の狼進退將に極るの図だ。誰れだつて迷うのはあたり前、それかとて指をくわい日和見の押し流されて行くのか。各人の努力と判断が要求される。農協の指導性が大きなウエイトとなる。ゆれ動く農民の動静をよく促し、指導理念の確立は要求されたにして云へないだろ。誤りなき将来の転望、青写真の作成が急務とならう。農民自らも今までのような販売の弱さを反省する秋でもある。それかとて多角的農法でも取入れ困難の面を露呈している我が村で規模の拡大による生産コストを引き下げて対処することが急務のようだ。
そこで協業化による消力とコストダウンも考えられるも波乱含みが果積しておるようである。農協農地保有合理化法人寄託が発足したところだけ寄託があるのか今のことろ目安とてない。勢い前記と併せ農協では問題点となり作業を進めねばなるまい。農民あつての農協、農協あつての農民、にわとり卵式ではあるが忘れてはなるまい。農協農民間に不信感が芽生えたら恐るべき事態の発生を恐れらるものである。人間とは困窮に迫込まれると不信感を抱く動物であることも忘れてはならない。
農協も奮立して、農民も奮立して、この合言葉で以てこの危急を突破しなくてはならぬと思われ、三年は天目山とならうかと思われ、苦しいは他力本願は許るされぬ、苦しいは自力本願は許るされぬ、苦しいは自力本願でなすべきの神頼みは通用されぬ。もはや神頼みも国会のヒンセイ様でも解決してはならない、自己の力を奮振しなくてはならない。
「一九七二、一、一五」